

ベトナム子供基金通信 NO. 7 (1998年2月5日発行)

ベトナム子供基金
〒113 東京都文京区本駒込 2-12-13
アジア文化会館内
TEL. 03-3946-4121(代表)
FAX. 03-3946-7599

ベトナム青葉奨学会
QUY HOC BONG LA XANH
c/o TRUONG NHAT NGU DONG DU
43D/46 HO VAN HUE, PHU NHUAN
HO CHI MINH CITY, VIETNAM
TEL. 84-8-8453782 FAX. 84-8-8454228

ストリートチルドレンの救援活動に献身する ベトナムの青年たちにご支援を！

私たち「ベトナム子供基金」が協力している青葉奨学会は貧しいながら頑張って学校に通い、一所懸命勉強をしている子供たちを対象にしています。ストリートチルドレンと呼ばれる路上生活をしている子供たちはそのような言わば通常の社会から無理矢理押し出されてしまった子供たちです。この子供たちが日々置かれている状況について、そして彼らを何とか救おうとして献身的に活動しているベトナムの青年たちの組織「タオダン」(大勢の子供たちが集まるホーチミン市中央部の公園の名前。彼らの活動はここから始まった)について、昨年末の子供基金運営委員会で、タオダン取材した2人のジャーナリスト、加藤隆子さんと土井敏邦さん(本基金運営委員)とにお話を伺いました。そしてそのお話に基づいて討論し、ベトナム子供基金運営委員会はタオダン支援することを決めました。今まで受けていたイギリスのNGOからの支援を断たれて、苦境に陥っているタオダンにとりあえず1年間の活動資金を提供したいということです。

しかし、子供基金はベトナムの子供たちに対する奨学金および教育環境の整備を目的として、グエン・ドク・ホウエさんの青葉奨学会を支援することを前提として集めた基金ですので、そのまま流用することはできません。そのため今回は、別途タオダン支援のための募金をし、これをやはりホウエさんを通じてタオダンに渡すことになりました。ホウエさんもタオダンについてはよくご存じで、今年の特ト(お正月)に恵まれない子供たちのために青葉奨学会がホーチミン市で集めた募金による支援対象にはタオダンも含まれていて、この1月24日には、統一公園で150着の真新しい白いシャツと紺のズボンがタオダンを通じて子供たちに贈られました。

皆様のご支援、ご協力が戴けますよう、また、皆様のまわりの方々にもお呼び掛け下さいますよう、お願い申し上げます。

タオダンの活動に触れて

加藤隆子（ジャーナリスト）

1997年8月、私はタオダンのスタッフに同行し、ホーチミン市内のストリートチルドレンの取材を行いました。ストリートチルドレンとは、路上生活をしている、概して18歳未満の子供たちのことを指し、おおまかに以下の3タイプに分けられます。

- 1) 全くの孤児で、家もなく自分一人で路上生活をしている者。
- 2) 家族全員で路上生活をしている者。
- 3) 家はあるものの、昼間は路上で生活し、夜だけ家へ帰る者。

このように背景は様々ですが、皆、生活のためにガムや宝くじ売り、靴磨き、物乞いなどをして暮らしています。しかしこういった職業は、彼らが子供だからこそできる現金稼ぎの手段であり、自立という点では、彼らは経済条件や戸籍の問題などで学校教育を受けていないため、将来について危惧されています。中には売春（女の子の場合）を強いられたり、悪い組織に使われて売上を搾取されたり、あるいは窃盗などの不法行為に利用されて罪をかぶせられたりしてしまう子供もいます。タオダンのスタッフは、こういった常に危機にさらされているストリートチルドレンのための保護活動を行っています。

「ホンダのバイクに跨がり路上の子供たちのために毎日ホーチミンの町中を東奔西走するひたむきな若者たち」。タオダンのスタッフやボランティアの人達を一言で表現するならば、このようなことでしょう。子供たちに何を強制するわけではないけれど、いつも気を配り目をかけて必要な助けを施そうとする姿、そして彼らの熱意に応えるように絶大な信頼をよせるストリートの子供たち。この双方間の人間関係はそれを知る人々の琴線に触れるものです。この関係は、毎日子供たちに接している彼らだからこそ造り上げることができたものなのでしょう。

「常に子供たちに接している自分たちのやり方で活動をしていきたいので、この方針を変更することを条件とする資金援助なら受けられません」という彼らの一念は、一人一人の姿からよく伝わってきます。行く場所のない子供たちが食事をし、寝泊まりし、勉強することのできる家、子供たちに働くことを経験させるために開いた自分たちの雑貨店、事務所、これらの運営をはじめ、街での日夜の見回り、そして学校での教育を受けられない子供たちのための、ビルの明かりを利用しての路上の学習会、生活に追われている子供たちに「遊び」を提供する公園でのレクリエーション、道徳教育...彼らの仕事に終わりはありません。皆、自分達の活動に生き甲斐を感じ、ひたむきに打ち込んでいます。また彼らに同行して出会ったストリートの子供たちも、生活を維持するための厳しい顔の裏の無邪気な子供らしい笑顔を私に見せてくれました。この子供たちの無垢な笑顔を支えているのがタオダンのスタッフやボランティアの人たちなのでしょう。

しかし、このタオダンも現在、危機の渦中にあります。というのも、今までタオダンの活動に対し、援助をしていたイギリスの団体（Save The Children Fund / UK）よりの資金援助が1997年9月いっぱい打ち切りになってしまったのです。新たに活動資金源を

探さなければなりません、目処は全くたっていません。今のところ、彼らの活動に理解を示してくれる人々からの寄付や、お店の売上などで何とかしのいでいますが、それにも限界があります。しかし、活動を続けていきたいというスタッフやボランティアたちの意欲は固く、今までわずかながら給料をもらっていたスタッフもその額を半分近くまで減らしながらも頑張っています。タオダンの存在が無くなってしまふことは、ストリートチルドレンにとっての「砦」がなくなるというばかりではなく、自分たちの社会への貢献の機会を求めている若者たちの活躍の場までも無くしてしまうこととなります。タオダンのような本当に誠実で意欲的な団体、そしてそれを支えているすがすがしい若者たちの笑顔を失ってしまうことは、極めて残念なことです。

社会の変化に抵抗もできず、自分のおかれた状況をただ黙って受けとめることしかできない子供たち、そして自分たちの社会が抱えている問題を自分たちの力で少しでも解決していこうという献身的な若者たち。彼らの熱意が報われるよう心から願ってやみません。

短い期間でしたが、タオダンのスタッフやボランティアの人達の熱意に直接触れることができたことは、私自身にとって貴重な体験であり大きな財産となりました。ストリートチルドレンの状況、そして彼らのために朝から晩まで奔走する若者の姿を言葉だけで伝えることは恐らくできないでしょう。しかし、彼らの笑顔が1日でも長く続くよう、そしてこの紙面を通じて一人でも多くの方々のご理解そしてご支援を得ることができるよう、切に願っております。

《註》 加藤隆子さんの取材は、「週刊新潮」97年9月4日号に「ベトナムの『埃』と呼ばれるストリートチルドレン」と題する7ページのグラビアで掲載されました。新潮社の許可を得て、その一部を本通信に転載させて頂きました。また、土井敏邦さんの取材は97年12月11日午後10時からのNHK教育テレビE TV特集「傷つけられた少女たち—ベトナム・ストリートチルドレン物語—」として放映されましたが、その要所々々で土井さんをこの取材の核心に導いたタオダンの青年たちの姿が紹介されています。このビデオをご覧になりたい方は、事務局にご連絡ください。

お 願 い

タオダン支援募金のために、今までの「ベトナム子供基金」と別の口座を用意しました。ご協力くださる方は下記宛にご送金ください。金額は自由とします。

口座名義はいずれも「ベトナム子供基金・タオダン支援」
郵便振替：00170-5-18054
銀行振込：富士銀行駒込支店 普通預金 1602525

タオダンの概要紹介

ベトナム子供基金編集部

ストリートチルドレン救援民間組織「タオダン」は1992年2月、ホーチミン市内の街路で生活している子供たちの保護と教育のために創設されました。代表は、旧サイゴン政権時代に、自らもストリートチルドレンとして、一時麻薬中毒患者となるなど、苛酷な幼・少年期を過ごしたグエン・バン・ホンさん。更生施設で立ち直り、青年期にクリスチャンに改宗、以後かつての自分と同じような状況に陥っている子供たちの救済のために生きることを決意して活動を開始しました。現在スタッフ10人、ボランティア約40人。強い情熱を持って不幸な子供たちの救援に奔走するボランティアの大半は大学生や高校生です。ホーチミン市心理教育協会コミュニケーション部の援護のもとで活動しています。

1996年9月1日から97年8月31日までに、タオダンに保護された子供は、延べ105名、うち8～19才の女子13名は性的虐待の危険があって保護されました。家族の元に帰った子供は39名で、うち9名が女子。他の施設に移った子も10名います。家族の元へ帰れる条件が十分でないとか家族そのものがないケースで、15名の子供たちが常時施設で生活しています。スタッフは子供たちの家族が住んでいる社会で、家族と共に生活し、成長できるように努力しています。ある子供たちは、家族の元での生活に適応できず、時々路上生活に戻ってしまいます。一般に、路上の子供たちは、彼らの手におえない問題にぶつかったり、病気になったりした時に、助けを求めて、タオダンの元に身を寄せて来るのです。ベトナムの「児童保護委員会 CPCC」(Committee for the Protection and Care of Children)によれば、ストリートチルドレンと呼ばれる子供たちの数はホーチミン市内だけで約30,000人、全国では200,000人に上ると推測されています。

タオダンは、1995年よりNGO「セイブ・ザ・チルドレン基金/イギリス」(Save The Children Fund / UK)の資金援助を受けて活動を続けてきましたが、基金側の事情で97年9月までで援助は停止されています。主として次のような活動を行なっています。

1) 路上救援活動

ホーチミン市内の公園や動物園、繁華街や市場などストリートチルドレンが多く集まる場所にスタッフやボランティアが赴き、路上で子供たちへの応急治療やカウンセリングなどを行います。場合によっては、子供たちが小さな商売ができるように資金援助したり、仕事を紹介したりします。また子供たちを公園や動物園などに集め、ゲームや歌など、彼らに欠けているレクリエーションのための集会を定期的に催しています。これは子供たちが子供らしい情操を保つために大切なことです。

2) 子供を家族のもとに帰す

子供たちに家族があれば、できるだけ家族のもとに帰していくことを、タオダンは原則としています。子供たちの家族と手紙や電話などで連絡をとったり、直接家族を訪問し、子供たちが家庭に帰れる環境作りをしています。必要ならば、子供たちをホーチミン市から遠く離れた地方の家族のもとへも送り届け、子供たちの事情を家族に説明し、カウンセリングを行うこともあります。また子供たちが家を出る大きな原因の1つである家族の経

済破綻を救済するために金銭的な援助をすることもあります。

3) 保護施設の運営

路上で保護を求める子供たちのために、民家を借りて、食事と宿泊場所そして学習の機会を提供しています。97年8月現在で16歳以下の子供たち15人が暮らし、子供たちはここをベースにして、靴磨きや宝くじ売りなどの仕事に行きます。

4) 基礎教育

タオダンの施設に保護された子供たちに教室を開き、読み書きや算数などの基礎学力をつけさせています。また、路上で暮らす子供たちの所にスタッフやボランティアたちが赴き、“路上教室”を開いています。

5) 職業訓練

ストリートチルドレンや貧しい家庭の少年たちにバイクの修理、扇風機など家電製品の修理、像の鋳造等の技術を教えています。ここで技術を身につけ、市内の修理店などへの就職の機会を掴みます。

6) 年間予算 (タオダン “安全の家活動プロジェクト 1997/9/1~1998/8/31” より)

1. 家賃:	900,000ドン/月×12ヵ月	10,800,000ドン
2. 電気水道代:	250,000ドン/月×12ヵ月	3,000,000ドン
3. 子供たちへの食事代:	6,000ドン/人×15人/日×365日	32,850,000ドン
4. 燃料代:	3,600ドン/リッター×50リッター/月×12ヵ月	2,160,000ドン
5. 子供たちへの衣服・サンダル代:	100,000ドン/人/年×15人	1,500,000ドン
6. 学習用具代:	10,000ドン×15人×12ヵ月	1,800,000ドン
7. エンターテインメント活動費(ピクニック、映画観賞、本、新聞、他):		1,500,000ドン
8. 医療費:		2,000,000ドン
9. 家庭訪問および子供の家庭への復帰関係経費:		3,000,000ドン
10. 職業訓練経費および修了後の道具購入費:	500,000ドン/人×5人	2,500,000ドン
11. 子供たちとその家族への資金援助:		3,000,000ドン
12. その他の経費(トイレトーパー、石鹸、他):	35,000ドン/月×12ヵ月	420,000ドン
(家や道具類の修理費):	1,500,000ドン/年	1,500,000ドン
13. 維持費(文房具、フィルム、電話、その他):		7,000,000ドン
14. 教育スタッフへの給与:	2人×750,000ドン/月×13ヵ月	19,500,000ドン

計: 92,530,000ドン

1998年1月6日現在の対米ドル通貨レート、1米ドル=13,500ドンに従えば、計6,854米ドルです。但しベトナム政府の決めた公定レートは1米ドル=12,290ドンなので、実際は7,528米ドルが必要で、1月8日現在の対米ドル日本円のレート1米ドル=131円に従えば、986,168円、つまりタオダンの1年間の予算は、日本円にして約1,000,000円ということになります。

ミンハイ省小学校の開校式に出席して

開校式は97年7月17日。前日早朝6時にホーチミンを出発し、ホウエ先生と私は、『トイチャー』新聞社（ベトナム共産党青年団の機関誌、『若い世代』の意）の記者らとミンハイに向かいました。途中フェリーに2度乗り、午後3時頃にウーミン郡のカーマウ市に到着。翌朝スピードボートで約1時間。初め川沿いには隙間なく家屋が林立し、水上市場では行き交う舟でごった返していましたが、そのうち大きな川にでたかと思うと、ひたすら同じ景色の中を走り続けます。川岸には所々に魚を取る落とし網が組まれていました。川の交差点を何度か曲がると、だんだん川の道が細くなり、途中くぐる橋は細い竹で組まれた綱渡りのような橋。低い橋に頭をぶつけそうになりながらゆっくり進むと、遠くに、式典やお祭りのときに飾られる黄色や水色、ピンクなど色とりどりの旗が見えてきました。生徒たちが既に校庭で学年順に並んで待っています。校舎は教室(6X8m)3部屋、職員室(4X6m)1部屋、離れたところに井戸とトイレがあります。机と椅子は地元教育局から贈られた1組5人くらい座れる細長い木製。その椅子に参加者たちが座って式典が始まりました。ホウエ先生を初め郡長ら関係者のスピーチ、生徒から花束贈呈、テープカット、子供基金の名前と設立日の入った石のプレートの除幕が行なわれました。

生徒たちは私が向けるビデオカメラに照れまくって、しまいには参加者から叱られていました。式典後、私を鬼にして追いかけて。笑い声が教室内に響きました。この開校式の様子は7月24日付トイチャー新聞に紹介されました。新学期の9月より6クラス、教員6名、生徒数179名で授業が始まっています。総経費約15,000米ドルのうち、子供基金が11,800米ドルを負担し、残りを地元教育局が捻出しました。

通信6号でお伝えした11月2日の台風5号によって、新築の校舎の屋根の一部が吹き飛ばされましたが、間もなく修復されました。人的被害の多くは出漁中の漁民だということで、奨学生の被害は伝えられていません。尚、当日の式典の様子については、ビデオテープが東京事務局にありますのでご利用ください。

丸山明美（ベトナム子供基金／在ホーチミン）

「ベトナム子供基金」会員募集中

里親基金 年額1口 20,000円	特定の「里子」に奨学金を支給する「里親」になって戴きます。ベトナム青 葉奨学会から子供と家族の履歴票が届き、子供と手紙のやりとりができます	会費納入は次の所をお願いします。口座名義はいずれ も「ベトナム子供基金」です。 郵便振替 00140-1-70399 銀行振込 富士銀行駒込支店 普通預金 1495745
一般基金 年額1口 12,000円	お一人お一人が子供たち全体の「里親」という関係を想定してください。 子供基金通信によって、会の運営報告、子供の様子等をお伝えます。	
賛助基金	一般基金に準じます。金額、回数等、一切自由です。	

* タオダン支援の口座については3ページをご覧ください。



ミンハイ省ウーミン郡にあった小学校旧校舎と教室の様子



完成した新校舎と壁に埋め込まれたプレート「1997年7月15日、学校はベトナム子供基金の援助およびトイチェー新聞、ミンハイ新聞、青葉奨学会の協力によって建てられた」とある。



新校舎の廊下でホウエ先生と談笑する生徒たち

事務局から

1. 通信6号でお知らせ致しましたが、今年から子供たちへの奨学金支給期間は1月から12月までに統一されました。昨年の9月から12月にかけて、ベトナムの青葉奨学会で受給申請と審査が行なわれました。その結果、新たに北部で102名、南部で2名への支給が決まりました。また、12名の支給中止がありました。
その内訳は、①留学するため：4名 ②卒業するため：2名 ③家庭の事情で退学するため：2名 ④成績不良のため：4名 です。
2. ベトナムからの年賀状を転送致しましたが、手違いで料金不足でお送りしたものがありませんでした。大変申し訳ありませんでした。
3. 第6号で言及した中央奨学会からの承認はまだ出ていません。しかしホウエ先生は先日北部ナムディン市での授与式に出席してきました。いずれビデオが送られて来ることになっています。
4. ロンアン省ベンルック県で奨学金を辞退させられた19人の子供たちの件は残念ながら進展していません。ただナムディンの授与式やハノイでも奨学金の支給が始まることを考えれば、如何にも理不尽です。早く子供たちの笑顔を見たいものです。
5. 南部より経済条件が厳しいと言われる北部での支給開始に伴い、奨学生の数が増えていますが、会員の数はのびなやみの状況です。お知り合いの方にこの基金をご紹介ください。ご連絡戴ければ、ご案内や通信を必要部数だけお送り致します。
6. 会計報告が遅れています。誠に申し訳ありません。次号では会計報告を中心にお送り致します。

ベトナム子供基金・タオダン支援 申込書		_____年 ____月 ____日
ふりがな お名前：	(ベトナム子供基金の) <input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員	事務局記入欄
〒 ご住所：		ご入金確認
TEL/FAX		領収証発行
ご送付金額： ご入金方法：		通信発送日
円 <input type="checkbox"/> 郵便振替 <input type="checkbox"/> 銀行振込 <input type="checkbox"/> 現金書留		その他

* タオダン支援の口座については3ページをご覧ください。